

先端教育人材育成推進機構を核とした 教員養成フラッグシップ大学の展開

令和4年度教員養成フラッグシップ大学フォローアップ
ヒアリング（令和5年1月10日）



国立大学法人

東京学芸大学

教員養成フラッグシップ大学 推進体制

(令和4年11月現在)



国立大学法人 東京学芸大学

連携協力協定等

先端教育人材育成推進機構（令和4年度設置）

機構会議

（人事、予算等の重要事項の審議）

機構長、副機構長、ユニット長、関係副学長等

※ユニット長は原則、学長補佐が兼務 ※複数の本部・ユニットの兼務者有り

次世代教育人材育成のための 連携大学 大学コンソーシアム

【参加大学】 上越教育大学 埼玉大学
千葉大学 横浜国立大学 玉川大学
【協力大学】 宮城教育大学



青森県 岩手県 宮城県 秋田県
山形県 福島県 茨城県 栃木県
群馬県 埼玉県 千葉県 東京都
神奈川県 ※政令市が参加

ステークホルダー



企業・産業界・
研究機関

三菱みらい育成財団
Z会グループ
統計数理研究所
Rejoui
Inst. Global Society

アルー
内田洋行
ネットラーニング 等

本学教育インキュベーション推進機構



未来の学校
みんなで作ろう。
PROJECT

本部

機構長（理事・副学長）
副機構長（副学長）
専任教員3名、学内兼任8名
機構長特別補佐（特命）1名

【外部アドバイザー等】
研究アドバイザー1名（国研）
協力研究員2名（教職員支援
機構/元大学教員）

開発プログラム提供
・成果普及

参加・
意見の反映

リエゾンチーム

研究開発への参画
（人的・資金的リソースの提供）

共同研究
・開発



開発プログラム提供
・成果普及

○アウトリーチ型デモンストレーション 等での普及
○研修プラットフォームを通じたコンテンツ提供等



【国公立】 大学間ネットワーク

日本教育大学協会
日本教職大学院協会
全国私立大学教職課程協会



- 教員需給と教育政策PJ
- 道徳教育研究開発PJ (R5~)

教職専門性基準 開発ユニット

ユニット長
専任教員5名、学内兼任1名、特命1名

教育・学習デザイン 開発ユニット

ユニット長
専任教員2名、学内兼任5名

【外部協力教員等】
協力研究員3名（学校、民間研究機関、大学）

外国人児童生徒教育 推進ユニット

ユニット長
専任教員2名、学内兼任4名、
特命1名

【外部協力教員等】
協力研究員3名（連携大学）

高校教育 開発推進ユニット

ユニット長
専任教員3名、学内兼任10名、
特命1名、専門研究員1名、附属教員1名

【外部協力教員等】
協力研究員3名（連携大学等）

データ駆動型教育 創成ユニット

ユニット長
専任教員1名、学内兼任5名

教師教育高度化 ユニット

ユニット長
専任教員1名、学内兼任4名、専門研究員
1名

教育者研修プラット フォーム開発ユニット

ユニット長
専任教員1名、学内兼任11名

【外部協力教員等】
協力研究員5名（教育委員会、民間企業）

次世代組織マネジメント 研究開発ユニット

ユニット長
専任教員3名、学内兼任3名

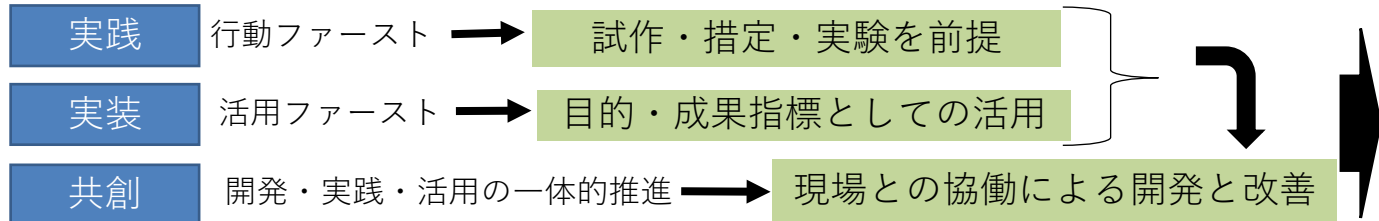
【外部協力教員等】
大学、自治体等から参画

ユニット長
会議

科目開発
担当者
連絡会

先端教育人材育成推進機構における研究開発

実践・実装
・共創型
研究開発



本部

○教員需給と教育政策PJ

- ・データ分析に基づいた教員需給の実態解明と将来予測
- ・教員政策におけるデータ分析を中心としたEBPMの在り方（推計の在り方）

R4 教員需給の推計モデル開発予定／教員採用シンポジウム開催

教員政策形成の在り方（将来像）提示

○次世代型道徳教育研究開発PJ（R5～）

教職専門性基準 開発ユニット

- ・ Society5.0を想定した**次世代型の教員の専門性基準（教員育成指標）**開発
- ・教育実習を効果的に進めるための教員の資質能力基準開発

R4 基本方針＝教師が主体的に成長するための指標
教師の資質能力のカテゴリー策定予定
教育実習指導者の資質能力の枠組み整理

教育・学習デザイン 開発ユニット

- 学習者(子供)中心の対話型授業研究法／個別最適と協働学習の融合カリキュラム開発
- ◎**社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン** ◎**学びを支えるファシリテーションの技法** ◎**教師のレジリエンスと自己管理能力の育成**

R4 個別最適な学びに関する教員対象調査実施
全国各地での対話型授業研究の実践

外国人児童生徒教育 推進ユニット

- ・外国人児童生徒のための教育プログラム
- ・外国人児童生徒教育に向けた教員研修プログラム開発

R4 高校日本語指導の体制構築等の手引きやカリ
キュラム編成等のガイドライン開発
外国人児童生徒等の心身の健康課題PJ始動

高校教育 開発推進ユニット

- ・高校における探究的な学びを実現するための、教科及び教科横断的な学びに関する授業モデルや探究プログラム、教師教育モデルの開発

R4 指導案検討会・研究授業・研究協議会からなる授
業研究ワークショップの実施；対面/オンライン
授業研究用**ツールキット（教員研修用教材）**公開
OECD共同研究等とのワークショップ等の共催

データ駆動型教育 創成ユニット

- ・データ駆動型教育科目開発 ・ICT指導力育成プログラムの開発
- ◎**教育のためのデータサイエンス**

R4 デジタル教科書・教材活用のための学習履歴データ活用研究
eポートフォリオ活用とラーニングアナリティクス
成績評価データを用いたデータ駆動型教育

教師教育高度化 ユニット

- ・教職大学院を活用した教師教育の高度化のためのプログラム（汎用型ラーニングポイント制）開発

R4 ラーニングポイント制普及のための基礎調査研究
新しい実習科目「自己創造のための教育体験活
動」開発

教育者研修プラッ トフォーム開発ユニット

- ・現職教員向け研修コンテンツの多層的なプラットフォーム開発
- ・オンライン上での教員の学びのコミュニティづくり

R4 プロトタイプ構築（etudes+オープンバッジ）
モデルエリアでの実証検証開始予定（R5）

次世代組織マネジメン ト研究開発ユニット

- ・学校教育システムの変革も視野に、チーム学校等を踏まえた、貧困、虐待等への対応を主眼とした 実践連携マネジメント能力育成プログラム開発
- ◎**チーム学校と多職種協働**

R4 教材作成のための予備ヒアリング調査
子どもの学び困難支援センターとの成果交流

先端教育人材育成推進機構とネットワーク

先端教育人材育成推進機構における「実践・実装・共創型の研究開発」

本部

核としてのユニット
(プロジェクト型)

- 教職専門性基準開発ユニット
- 教育・学習デザイン開発ユニット
- 外国人児童生徒教育推進ユニット
- 高校教育開発推進ユニット

- データ駆動型教育創成ユニット
- 教師教育高度化ユニット
- 教育者研修プラットフォーム開発ユニット
- 次世代組織マネジメント研究開発ユニット

リエゾンチーム



教育委員会
・学校



企業・
産業界



連携大学

参画、意見反映
成果の提供

開発したプログラ
ム等の提供

ネットワークⅠ
(教育委員会)

東日本の都道府
県教育委員会
と連携協定

青森県
岩手県
宮城県
秋田県
福島県
山形県
茨城県
栃木県
群馬県
東京都
神奈川県
埼玉県
千葉県
※政令市の参加

各ユニットで開発したプログラム等

活用、普及

ネットワークⅡ (大学：フラッグシップ大学に特化したネットワーク)

次世代教育人材育成のための
大学コンソーシアム (連繫大)

教員養成高度化連携協議会
参加大学

(教育関係の7大学 (国立、私立))

首都圏の12大学 (私学・国立)

活用、普及

先導的な教職科目の開発

- 社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン
- 学びを支えるファシリテーションの技法
- 教師のレジリエンスと自己管理能力の育成
- 教育のためのデータサイエンス
- チーム学校と多職種協働

教員養成プログラム

★「自律型カリキュラムデザイン」モデルの確立

フラッグシップ大学で伸ばす資質・能力と新しい教職科目の開発

○「探究力、創造力、他者・社会と協働できる力」を育成する力

→1) 教科横断学習 (STEAM含む) 実践力

→2) アクティブラーニング実践力

(育成する授業科目)

(授業内容)

1) 「**社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン**」1単位
(学部3年生対象)

教科等横断的な学習、STEAM教育など、各教科・領域の枠組みや知識を総合的に働かせて、問いを立て、探究していくプロセスを通じて育成

2) 「**学びを支えるファシリテーションの技法**」1単位
(学部3年生対象)

ファシリテーションの技法や学習するチームづくりの手法の習得を通じて育成

○3) 子供が置かれている多様な環境への対応力

○6) 学校内での協働・社会との協働をマネジメントする力

(育成する授業科目)

(授業内容)

3) 及び6)
「**チーム学校と多職種協働**」
1単位
(学部3年生対象)

多様な専門職集団の中での教師の専門性や、学校外の支援との連携を効果的に行うための教師の役割、マネジメント力、情報共有ツール等に関する実践的な知識や技能を学ぶ

○4) 学び続けるために、自己をマネジメントする力

(育成する授業科目)

(授業内容)

4) 「**教師のレジリエンスと自己管理能力の育成**」1単位
(学部3年生対象)

レジリエンスの基本的な考え方とともに、自尊感情、感情のコントロール、ソーシャルスキル、ストレス耐性、ソーシャルサポートなど、関連要因について知識を得て、各々を高める方法についてグループワークを行い技術を習得

○5) 学校教育のより良い変革に資する基盤となる探究力、創造力

(育成する授業科目)

(授業内容)

5) 「**教育のためのデータサイエンス**」1単位
(学部2年生対象)

データサイエンスを構成する基礎的な内容を学ぶとともに、教育のフィールドにおける具体的な課題の解決を通じて育成

先導的科目（教育創成科目）と自律型カリキュラムモデルの開発

フラッグシップ大学を目指す人材像	変化が激しく予測困難な時代へ対応できる力と 新たな価値を創造できる力を 子供に育成することができる教師		学校や社会をより良く変革することに自律的・主体的に 取り組むことができる力を有する教師			
フラッグシップ大学で伸ばす資質・能力	「探究力、創造力、他者・社会と協働できる力」を育成する力	子供が置かれている多様な環境への対応力	学び続けるために自己をマネジメントする力	学校教育のより良い変革に資する基盤となる探究力、創造力	学校内での協働・社会との連携をマネジメントする力	
必修	★社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン	★チーム学校と多職種協働（貧困や虐待など、子供の現状）	★教師のレジリエンスと自己管理能力の育成	★教育のためのデータサイエンス	★チーム学校と多職種間協働（連携のための効果的なマネジメント）	
	★学びを支えるファシリテーションの技法					
選択必修	I群	●学校教育におけるSDGs ・エコスクール論 ・小学校におけるプログラミング教育 ・環境と教育実践 ・教育評価の理論と実践 ・遊びと発達 ・地域の環境観測とその実践 ・子どもの遊びと生活 ・学校図書館で深める主体的な学びのデザイン ・日本の教科教育と授業研究	●いじめ・不登校と変化する社会 ・インクルーシブ教育とユニバーサルデザイン ・外国人児童生徒への日本語教育 ・特別ニーズと教育 ・不平等と学校教育 ・現代の学校と外国人児童・生徒	●未来の学校をみんなで創る ・教室集団の人間関係 ・現代学校論 ・学校経営のための教育経営 ・教育政策 ・教師の省察の実践のための教育思想 ・日本の教育（A）、（B）	●教育の情報化基礎 ・教育ビッグデータとデータ分析	●学校保健・衛生管理とマネジメントサイクル ・教職基礎としての子供の安全 ・学校教育と地域連携
	II群	●国際バカロレア教育と探究学習の視点 ・自然体験学習論	●こどもの学び困難と教育支援 ・国際理解教育論 ・子ども社会学 ・文化間移動と子どもの学び ・異国に育つ子どもたちの教育	●教育・教育支援者のメンタルケアの基礎理論 ・教育から見る日本の社会と歴史	●Edtechと最先端技術の活用 ・教師・教育支援者のための紙面・映像編集 ・教師・教育支援者のための情報セキュリティ ・外国の教育（A） ・外国の教育（B） ・教育開発と教育協力 ・世界の教育多様性	●学校教育とスクールソーシャルワーク ・現代の教育課題と文化遺産 ・教育支援とカウンセリング ・地域スポーツと部活動 ・学社連携と児童・生徒

実践に繋げる科目

★授業観察演習

自ら履修計画をデザインし、目標とする資質能力を身に付けるプロセスを重視。

- ★（赤字）：学校教育教員養成課程 必修科目
- （橙字）：I群・II群（選択必修科目）のうち、中核的な現代的・先導的科目

《履修方法》学校教育教員養成課程：修得単位11単位 ※内訳【6単位(必修)+5単位(I群から3単位、II群から2単位)】
 教育支援課程：修得単位7単位 ※内訳【1単位(「教育のためのデータサイエンス」必修)+6単位(I群、II群から3単位ずつ)】
 ※「自由選択科目」（学校教育教員養成課程・最大9単位、教育支援課程・19単位）の中でも、一定単位数履修することが想定される。

令和5年度からの履修基準

【学校教育教員養成課程（初等教育専攻及び中等教育専攻）の標準的な履修基準】

現行カリ			R5カリ		
教養科目	22単位	⇒	教養科目	22単位	
教育基礎科目	37～49単位 (29単位)		教育基礎科目	29単位	
専攻科目	教科・教職に関する科目（共通SE）		3単位	教育創成科目	11単位 (必修：6単位、 選択：5単位)
	専攻に関する科目、 等		55～67単位 (75単位)	専攻科目	55～60単位
自由選択	5～6単位		自由選択	4～9単位	
131～132単位			126単位		

- ◆専攻科目としての自由選択拡大【**新しい自己選択型教職科目群**（教育創成科目）】
- ◆総単位数の削減【**カリキュラム・オーバーロード**対応】
- ◆複数免許の取得の促進【**社会的ニーズ**への対応】

「自律型カリキュラムデザイン」プログラム

● 「自律型カリキュラムデザイン」プログラム（スケジュール）

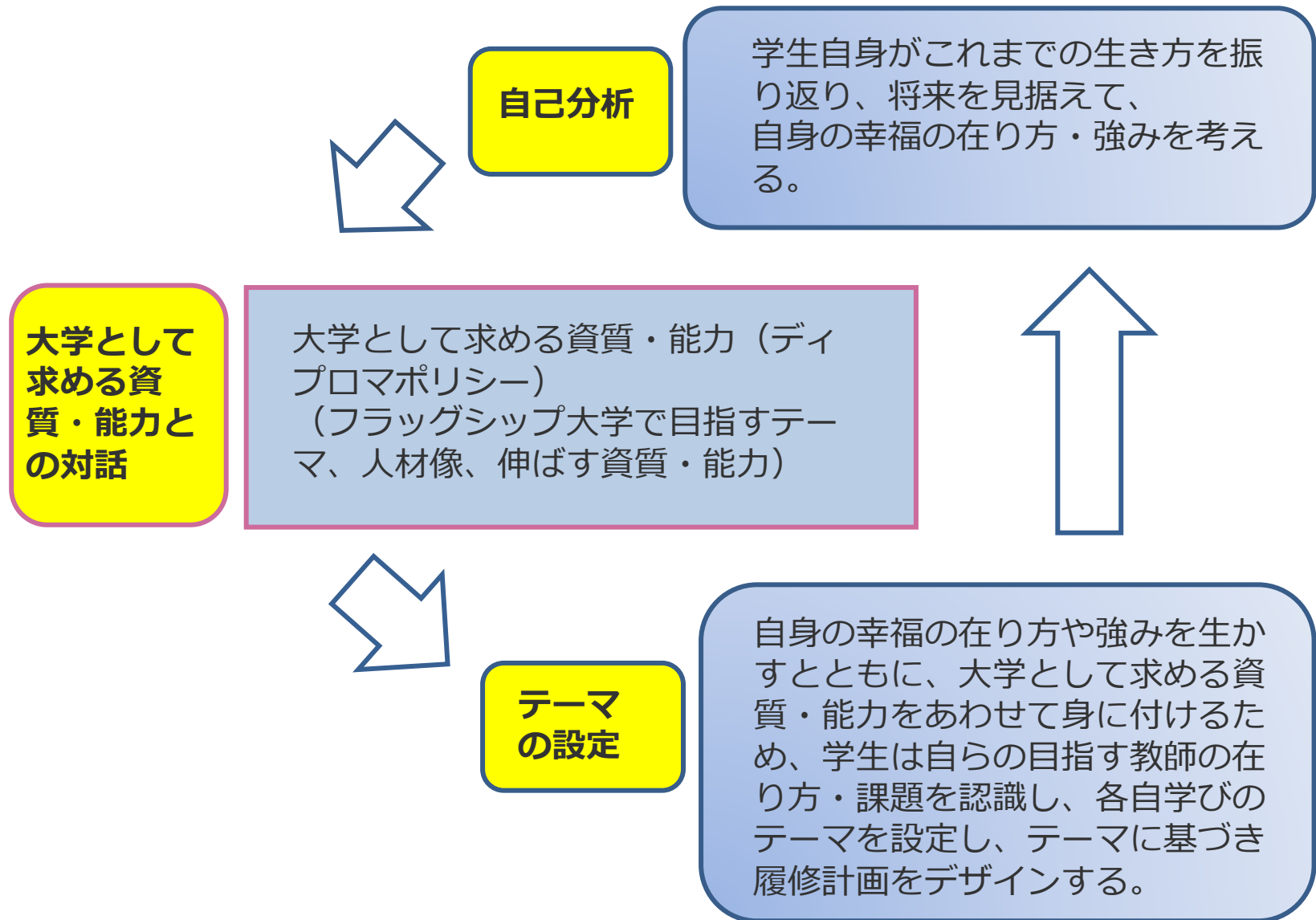


「自律型カリキュラムデザイン」のねらい

「自律型カリキュラムデザイン」4つの効果

- 各授業科目において得られる力が明確化。学生の目的意識が明確になることによる高い学習効果。
- それぞれのニーズにあわせて履修科目を選択可能。無駄のない個別最適なカリキュラムが実現。
- 自ら履修計画を立てることによる、学生の主体性、自律性の成長
- 学生が、学ぶ側にたって、体験的に、カリキュラムづくりを考える機会を提供

学生を「自律型カリキュラムデザイン」のプロセスに導くための仕組み (自己分析 → 大学の資質・能力像との対話 → テーマ設定)



学生のイメージ化を支援するキーワード、教師像の例示

「新たな社会を創造する学校教育の実現」に向けた教育創成科目の目標と養成像

目標	変化が激しく予測困難な時代へ対応できる力と新たな価値を創造できる力を <u>子供に育成することができる教師</u>		学校や社会をより良く変革することに自律的、主体的に取り組むことができる <u>教師</u>		
能力資質	①「探究力、創造力、他者・社会と協働できる力」を育成する力	②子供が置かれている多様な環境への対応力	③学び続けるために自己をマネジメントする力	④学校教育のより良い変革に資する基盤となる探究力、創造力	⑤学校内での協働・社会との連携をマネジメントする力
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・(子供の)探究力 ・(子供の)創造力 ・主体性 ・STEAM教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人児童生徒 ・特別支援 ・適応力 ・いじめ、不登校 ・教育の機会均等 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の働き方 ・自己マネジメント ・学び続ける教師 ・学校、学級経営 	<ul style="list-style-type: none"> ・(教師の)探究力 ・(教師の)創造力 ・ICT ・最先端技術 ・世界の教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携 ・チーム学校 ・学校安全 ・教育支援
教師像(例)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の枠組みにとらわれない学習により、子供達の創造力を育てることのできる教師 ・子供が探究心をもって自ら考え、主体的に学ぶことができるよう、手助けすることができる教師 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする児童生徒の置かれた多様な環境や状況について、社会との関連等も含めて多角的に理解するとともに、必要な支援について考えることのできる教師 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりをもって学び、成長しながら自らのキャリアを形成することのできる教師 ・学校を働きやすい場にするここと、学校組織の成長を支えることのできる教師 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT等の先端技術や国際教育の動向を理解することで、教員集団を牽引することのできる教師 ・これからの学校教育の可能性を自ら切り開くことのできる教師 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内外と協力関係を築いたり、その仲介役となったりすることのできる教師 ・学校現場を俯瞰して社会との結びつきを考えることのできる教師

テーマ設定を学びの構想として具体化させるための仕組み (テーマ設定 → 科目選択 → 学ぶ内容具体化)

●履修例Ⅰ テーマ：『現代的教育課題の解決のための協働・連携の在り方を知る』

履修科目例

- ・「**チーム学校と多職種協働**」(資質能力②、⑤)
- ・「いじめ・不登校と変化する社会」(資質能力②)
- ・「こどもの学び困難と教育支援」(資質能力②)
- ・「現代学校論」(資質能力③)
- ・「学校教育と地域連携」(資質能力⑤)
- ・「学校教育とスクールソーシャルワーク」(資質能力⑤) ...etc

⇒いじめや不登校をはじめとした現代の学校教育課題について、そのメカニズムを社会との関係も含めて理解し、地域やスクールソーシャルワーカー等との「チーム学校」としての連携における課題解決方法とその中で学校が果たす役割について学ぶ。

●履修例Ⅱ テーマ：『学校内外の協働や連携を通して教師の働き方を考える』

履修科目例

- ・「**教師のレジリエンスと自己管理能力の育成**」(資質能力④)
- ・「未来の学校をみんなで創る」(資質能力④)
- ・「教員・教育支援者のメンタルケアの基礎理論」(資質能力④)
- ・「学校教育とスクールソーシャルワーク」(資質能力⑤)
- ・「学社連携と児童・生徒」(資質能力⑤)
- ・「地域スポーツと部活動」(資質能力⑤) ...etc

⇒社会の急激な変化の中で学校が抱える課題がより複雑化・困難化している現状において、教師が効果的な教育活動を行うために必要な学校内外の協働、連携を学ぶ。働き方を含めた学校教育における教師の役割を見直すことで、充実した教師人生の実現について考える。

履修例②

●履修例Ⅲ テーマ：『ICT等の先端技術の活用を含めた探究学習の様々な可能性を知る』

履修科目

- ・「**社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン**」（資質能力①）
- ・「**学びを支えるファシリテーションの技法**」（資質能力①）
- ・「学校図書館で深める主体的な学びのデザイン」（資質能力①）
- ・「国際バカロレア教育と探究学習の視点」（資質能力①）
- ・「教育の情報化基礎」（資質能力④）
- ・「Edtechと最先端技術の活用」（資質能力④） ...etc

⇒子供たちが自ら学びを探究、創造するためにどのように授業をデザインするかを多角的に学び、それを実現するためのツールとしてのICT等の先端技術活用の可能性について学ぶ。

●履修例Ⅳ テーマ：『ICT等の先端技術活用による個別最適化された学びの可能性を知る』

履修科目

- ・「**教育のためのデータサイエンス**」（資質能力③）
- ・「教育の情報化基礎」（資質能力③）
- ・「Edtechと最先端技術の活用」（資質能力③）
- ・「現代の学校と外国人児童・生徒」（資質能力②）
- ・「特別ニーズと教育」（資質能力②）
- ・「インクルーシブ教育とユニバーサルデザイン」（資質能力②） ...etc

⇒多様化している社会の中で、一斉授業のような画一的な学びではなく、それぞれの個に応じた学びの効果が期待されている。ICT等の先端技術活用を通して、外国人児童生徒や障害を持つ児童生徒など、特別な配慮が必要な児童生徒に対する効果的な教育実践の在り方について学ぶ。

履修例③

●履修例Ⅴ テーマ：『広い視野にたって学校教育を俯瞰する』

履修科目例

- ・「**チーム学校と多職種協働**」（資質能力②、⑤）
- ・「子供の学びを支えるエコシステム」（資質能力⑤）
- ・「学校経営のための教育経営・教育政策」（資質能力③）
- ・「教師の省察的実践のための教育思想」（資質能力③）
- ・「国際バカロレア教育と探究学習の視点」（資質能力①）
- ・「世界の教育多様性」（資質能力④）
- ・「外国の教育（B）、（B）」（資質能力④） ...etc

⇒学校教育を地域や社会のシステムの一つとして捉え直すことや、世界の教育と相対化することにより、教育が持つ根源的な意味とこれからの教育の可能性を俯瞰して考える。

●履修例Ⅵ テーマ：『子供が安心して過ごすことのできる環境づくりについて学ぶ』

履修科目

- ・「**チーム学校と多職種協働**」（資質能力②、⑤）
- ・「**教師のレジリエンスと自己管理能力の育成**」（資質能力③）
- ・「学校保健・衛生管理とマネジメントサイクル」（資質能力⑤）
- ・「教職基礎としての子供の安全」（資質能力⑤）
- ・「教室集団の人間関係」（資質能力③）
- ・「こどもの学び困難と教育支援」（資質能力②） ...etc

⇒児童虐待やいじめや不登校など子供たちを取り巻く困難に加えて、昨今は自然災害や感染症などの危険からも子供たちを守ることが強く求められている。これらの責任に対して教師が自身として、さらに学校内外との連携も含めた組織としてどのように対応するかを学ぶ。

履修プロセスの枠組み

● テーマ：『 _____ 』

履修科目

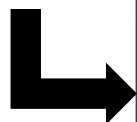
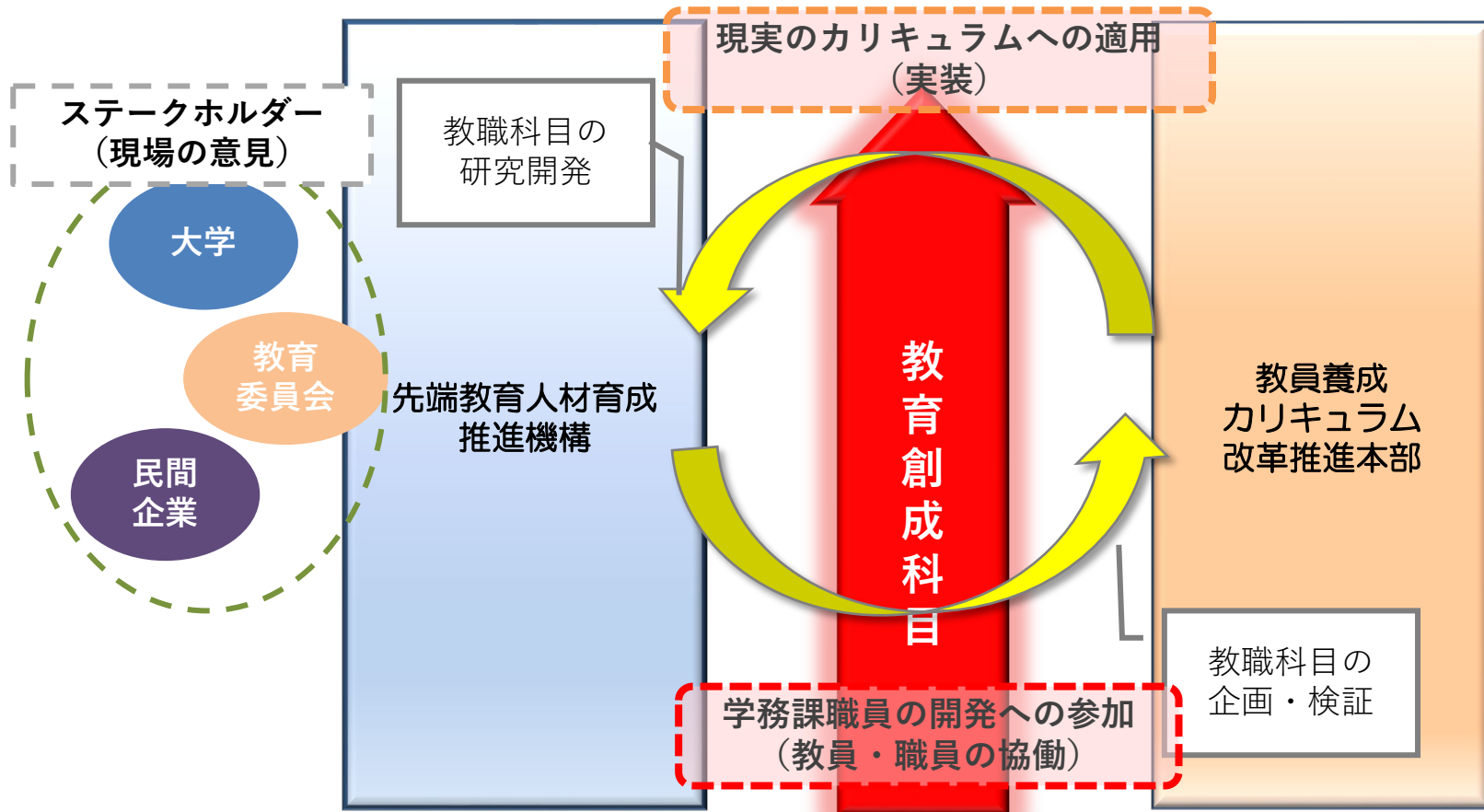
- ・ 「 _____ 」 (資質能力 _____)
- ・ 「 _____ 」 (資質能力 _____)
- ・ 「 _____ 」 (資質能力 _____)
- ・ 「 _____ 」 (資質能力 _____)
- ・ 「 _____ 」 (資質能力 _____)
- ・ 「 _____ 」 (資質能力 _____)
- ・ 「 _____ 」 (資質能力 _____)

⇒

学生個々人がテーマを設定し、そのテーマに沿って、履修科目の選択や、学ぶ内容を具体化するイメージ

大学にとっての「自律型カリキュラムマネジメント」

●大学にとっての「自律型カリキュラムマネジメント」（実践・実装・共創型の研究開発）



教職大学院への展開 (予定)

- ◆先導的科目の開発・普及
- ◆高度な実習科目の開発
- ◆汎用型ラーニングポイント制の改善・普及
- ◆学部・教職大学院連携カリキュラム開発

教員養成フラッグシップ大学 工程表

①全学的な教育研究体制整備

事業内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
学部組織再編・カリキュラム改訂	設置及び課程認定手続き		新組織・カリキュラム開始			新カリキュラム完成年度
フラッグシップ大学事業を推進する学内センターの再編	センター再編検討	先端教育人材育成推進機構設置 (センター統合・専任教員移籍)	さらなるセンター再編検討・実施 (機動的に、教職員が協働できる研究体制の整備)			

②先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発及び成果の展開

事業内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
フラッグシップ大学で伸ばす資質・能力を育成する授業科目の開発・実施	先導的な教職科目開発 「Edtechと最先端技術の活用」	特例を活用した教職科目の研究開発 (先端教育人材育成推進機構の各ユニットにて実施)	授業開発とともに、可能なものは試行的に実施 (教職大学院で実施、学部令和3・4年度入学生へ自由選択科目として実施)	(学部2年生対象)「教育のためのデータサイエンス」を正式開設 (初等教育専攻で特例活用)	(学部3年生対象)「社会に開かれた探究と創造の学びのデザイン」 「学びを支えるファシリテーションの技法」 「教師のレジリエンスと自己管理能力の育成」 「チーム学校と多職種協働」を正式開設 (初等教育専攻で特例活用)	
実質的なネットワークの構築・拡大 成果展開・成果分析 政策提言						
		リエゾンチームの設置 大学コンソーシアムの形成 → (拡大・発展)				

まとめ

●先導的・革新的な教員養成プログラム、教職科目の研究・開発

- ・大学として、教師として求められる人材像、資質・能力の提起
- ・必修5科目を含む全体で50を超える教育創成科目（先導的科目・学校内外をつなぐ科目）を整備
- ・学生が、自己分析を基に、自律的にカリキュラムデザインを行う仕組み
- ・人材像、資質・能力を、学習内容としてデザインするためのイメージ化を支援する仕組み
- ・教師としての自己成長を念頭に、テーマ設定、選択的な科目構成を通じて、達成像を自ら考える仕組みにより実質的なプログラムとなるようさらに検討を加えて行く。

●全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開

- ・教育委員会については、首都圏、北関東、東北地区の教育委員会と連携協定を締結して成果を学校へ
- ・大学については、上越、宮城教育大学等教育大学、首都圏の3つの教育系学部との連携協定
- ・全私教協の会長校である玉川大学と連携協定
- ・首都圏の私立・国立大学12大学で形成している教員養成高度化のための連携協定締結大学を通じて、先導的科目、教員養成プログラムを提供していく。
- ・また、数多くの民間との連繋によって、教員研修のためのプラットフォームの構築、教育カリキュラム・研修プログラム、未来の学校のための研究開発を進めている。

●取組の検証を踏まえた教職課程に関する制度の改善への貢献

- ・教職課程の制度改善については、先導科目やカリキュラムの開発を通じてその知見を提供していく。
- ・フラッグシップ大学として、現実に機能する「実践・実装・共創型の新しい研究開発」手法を開発している。
- ・EBPMの手法を活用した教員政策について政策提言の試みに着手しており、成果を制度改善に生かしたい。

●教員養成フラッグシップ大学推進委員会の所見

- ・教員養成全体への貢献については、大規模で多様な連繋関係を構築して、一般大学でも、無理なく導入できるように、先導的授業科目・研修プログラムのノウハウ、コンテンツを提供していきたい。
- ・5年先を見据えたガバナンスについては、先端教育人材育成推進機構は、ユニット長を核として、約100名の学内・外の研究者からなる体制を構築しており、また、運営資金についても組織整備の予算、学内、民間資金でまかなえる体制を整備している。